

日本鑄造

金属3Dプリンターが稼働

国内最大級、造形精度高精密

日本鑄造は川崎工場（神奈川県川崎市）に新設した日本最大級のパウダーベッド式金属3Dプリンターの稼働を始めた。本格稼働は10月からの見通し。半導体製造装置向け部材として外販するほか、鑄造欠陥を減らす社内向け部材の生産にも活用する。2028年度の外販売上高目標は当初予定通り1億円としており、同社によると既に強い引き合いがあるとする。

新設したのはセイア
ン・ブライト・レーザ
ー・テクノロジーズ
（BLT社）製金属3
Dプリンター「BLT
S450」。金属粉
末をレーザーで焼結し
ながら積層造形するパ
ウダーベッド式で、造

形精度が±0.1ミリと
精密なのが特長。造形
サイズは縦横450
ミリ、高さ500ミリサイ
ズで国内最大級。現在
主流となっている12ミ
リシリコンウエハー対応
の半導体製造装置向け
部材も製造できる。レ

期や価格面に優位性が
ある。従来の製造法で
は難しい中空造形も可
能で、部材の軽量化に
も寄与する。佐竹社長
は「機械加工を大幅に
施す必要がある部品
や、複数の部品を組み
合わせて作る部品につ
いては、3Dプリンタ
ーで工程を減らせる可
能性がある」と説明す
る。

安全保障上の観点か
ら、非日本製の設備に
よる生産時には情報漏
洩対策が重要となる
が、同社によるとBL
T社はエアバスやアッ

プルの製品実績があ
り、情報漏洩の問題は
発生していない。加え
て同社ではBLT-S
450と既存の金属3
Dプリンター2台をネ
ットワークから遮断し
たほか、社内のシステ
ム室で情報セキュリティ
教育を毎年実施す
るなど対策を徹底して
いる。

1月に設備の据え付
けが完了し、試運転を
重ねて3月30日に修祓
（しゅばつ）式を実施。
佐竹社長は「社運をか
けて導入した。できる

限り早く戦力化させ
る」と意気込む。



新設した金属3Dプリンターを紹介する佐竹社長

